

北陸三県の女性の就業率の高さの要因を探る ～育児と女性の就業選択について～

藤澤ゼミ 2018 年度卒業 H.T

1. はじめに

女性の就業者数は 2012 年から増加し続け、2018 年には女性の就業率は過去最高の 69.9% となった。女性の就業率の M 字カーブは近年緩やかになってきているが、依然として、出産、育児期にあたる女性は離職している。女性が再就職する際には、正規雇用の窓口が狭く、非正規雇用として働く場合が多い。それらが働く女性の地位の向上を阻んでいると考えられる。

2. 目的

本研究の目的は、出産育児期の女性の正規雇用の割合を高めている要因を明らかにし、女性の働きやすい環境について考察することである。

3. 内容と方法

分析方法として、重回帰分析のモデル式を用いた。従属変数は 25～44 歳の女性の正規雇用者の割合とした。

$$Y = \alpha + \sum \beta_i X_i + \varepsilon$$

独立変数は、二人以上の世帯の世帯主の収入・三世代同居率・保育所利用率・男性の育児への積極度・週 49 時間以上働いている男性の割合・学童保育利用率とした。北陸三県の 2017 年の市区町村別データを使用した。

さらに、従属変数の実測値が理論値を上回っている各市区町村の政策を調べた。

4. 結果と考察

分析結果は表 1 の通りである。モデルの調整済み決定係数は、0.541 である。分析の結果、三世代同居率・保育所利用率で正の因果関係が見られた。北陸三県においては三世代同居率と保育所利用率が女性の正規雇用者の割合を高めているとわかった。係数を比較すると、保育所利用率が最も大きく、子育て期の女性が正規雇用で働くために重要な役割を担っていると

推察される。

表 1：モデルの回帰係数

変数	係数	標準誤差	t 値
二人以上の世帯の世帯主の収入	-0.0006	0.0004	-1.4520
三世代同居率	0.4706 ***	0.1484	3.1719
保育所利用率	0.5757 ***	0.1937	2.9723
男性の育児への積極度	-0.0118	0.1037	-0.1140
週49時間以上働いている男性の割合	0.0142	0.0091	1.5574
学童保育利用率	0.1931	0.5694	0.3391
調整済み決定係数	0.5410		
N 値	51		

***: 1%有意 **: 5%有意 *: 10%有意

実測値が理論値よりも上回っている市区町村の子育て政策を比較すると、特に、子どもを預けやすい環境作り、資金面での援助をおこなっている市区町村が多いことがわかった。具体的には、夜間保育や延長保育、休日保育、子どもの一時預かり保育などをおこなっていた。また、地域で子育てを手伝う政策も多く、周囲の人の協力を得られる環境を作っていることが推測できる。資金面では、子どもの医療費助成を 18 歳まで無料とする手厚い保障をしている市区町村もあった。さらに、保育料や幼稚園に入るための資金援助もあった。

5. おわりに

分析の結果、北陸三県では三世代同居率や保育所利用率が女性の就業率を高めている。子どもを預けやすい環境や、子育ての資金援助は子育て期の女性の正規雇用者の割合を高める要因として有効に働くと考えられる。祖父母や地域の人など、周囲の人の子育てへのサポートも大切である。

<参考文献等>

- ・内閣府男女共同参画局（最終確認：2018.12.16）
URL: <http://qq3q.biz/OxuR>
- ・日本労働組合総連合会「非正規雇用で働く女性に関する調査 2017」（最終確認：2019.1.8）
URL: <http://urx.red/PAAc>